

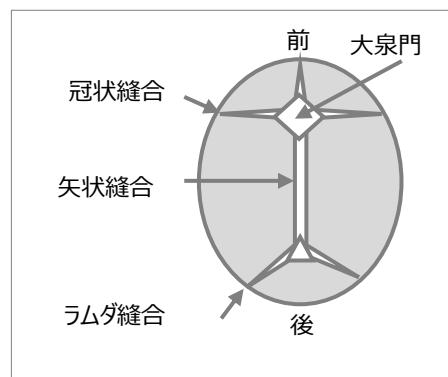
赤ちゃんの頭の形と当科でのヘルメット治療

◆今なぜ赤ちゃんの頭の形が話題なのか

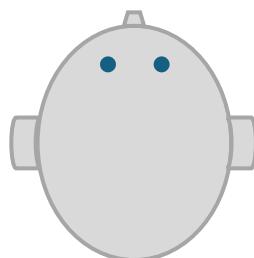
1990年代初頭まで赤ちゃんをうつ伏せに寝かせる事が流行った時代がありました。「吐き戻したミルクが肺に流れていかないように」という理由がよく言われましたが、ほかにも「側彎（そくわん）症を予防する」「発達を促す」などの説がありました。これらの説は今では全く支持されていません。一方で「頭の形が良くなる」というのは確かにありました。しかしうつ伏せ寝と赤ちゃんの突然死（乳幼児突然死症候群/Sudden infant death syndrome : SIDS）との関連性が明らかにされ、アメリカでは1992年より仰向け寝育児を推奨する“Back-to-sleep”キャンペーンが展開され、日本でも1998年より仰向け寝が推奨されるようになりました。これによりアメリカでも日本でもSIDSにより亡くなられる不幸な赤ちゃんは減りましたが、頭の形が問題となる赤ちゃんは増えてきています。

◆赤ちゃんの頭の形の異常にについて

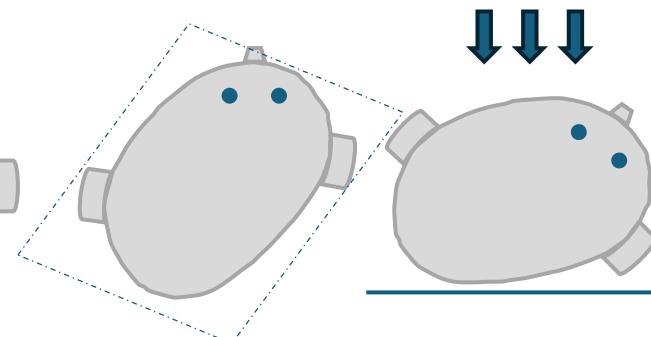
赤ちゃんの頭の変形は病的な変形と病的でない変形とに分けられます。病的な変形の代表が頭蓋縫合早期癒合症であり、病的でない変形は主に位置的頭蓋変形症です。ご存知のように頭蓋骨は最初から1枚のボール状の骨ではなく、前頭骨・左右の頭頂骨・後頭骨が次第に合わさって出来上がります。これらの骨のつなぎ目が頭蓋縫合と呼ばれ、右図のようになっています。これらの縫合が本来つながる時期よりも早くつながってしまって、癒合した縫合と直交方向の発育が障害され、逆に癒合した縫合と並行する方向には過成長し、頭の形が変形するのか頭蓋縫合早期癒合症です。位置的頭蓋変形症は頭の同じ場所を下にして寝ていることによって生じる頭の変形です。いわゆる向き癖で始まるのですが、向き癖が更に向き癖をひどくさせます。



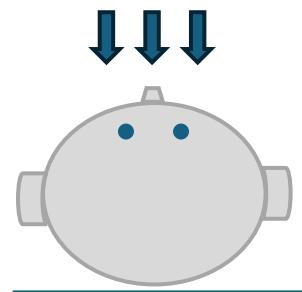
A. 正常



B. 斜頭



C. 短頭



B. 斜頭

向き癖のある方の後頭部から頭頂部にかけて扁平化

反対側の後頭部から頭頂部は隆起

前の方では向き癖のある方の前頭骨は隆起、反対側の前頭骨は扁平化

平行四辺形的に歪んでいます。向き癖のある方の耳が前方にあります。

C. 短頭

いわゆる“絶壁”

斜頭と短頭と両方とも認められるケースもあります。

頭蓋縫合早期癒合症と位置的頭蓋変形症の区別が気になる所ですが、わかりやすいポイントを3点だけ説明します。上の図のような位置的頭蓋変形症でのゆがみ方でない、頭蓋縫合を触ってみると少し盛り上がっている、向き癖のある方の耳が後方にある、などの点が見られる場合頭蓋縫合早期癒合症の可能性があります。

◆どんな問題が起きてくるのか

- 整容面での問題は大きいと思われます。顔面の非対称、眼裂の左右差、顎にゆがみなどです。
- 耳の位置の左右差によるメガネのかけづらさや外耳道の形にも左右差があるためイヤホンのつけづらさ
- 歯並びに影響があるとする報告がありますが、今の所因果関係はわかつていません。

- ・ 斜視を含む眼球運動異常や視野異常などの視覚機能異常の合併率が高い
- ・ 頭の形の非対称性や視覚機能異常などのため頭痛をかかえる率が高い
- ・ 神経・運動発達に遅れを伴うとの報告が複数ありますが、頭のゆがみとの因果関係ははつきりしていません。原因なのか結果なのか今の所わかつていません。

◆受診の前にできること

- ・ タミータイム（Tummy time）：タミーTummyは「ポンポン」、おなかという意味です。実際の方法はネット検索すると良いものがいくつも出てきます。ここでは一つだけ挙げておきます。 <https://www.babyband.jp/column/tummy-time>
- ・ 受診するかどうかの一つの目安としてお父さんお母さんが頭の形を少し測ってみても良いかもしれません。私たちがお世話になっている baby band に関するものとして「頭のかたち測定ツール」があります。<https://www.babyband.jp/deform> ただしあくまでも目安なので気になるようでしたら遠慮なく受診していただければ結構です。

◆当科で行っている治療について

現在日本国内で医療機器として認可を受けている矯正治療用ヘルメットは数社あります。当科では株式会社 Berry の baby band というヘルメットを使用しています。3Dプリンターによるオーダーメイドです。

自費診療であり、33万円（消費税込み）となっております。

治療開始時期は、生後3ヶ月から（通常首が座ってから）生後6ヶ月までとなっています。治療効果を考えると生後3、4ヶ月頃には始めたと考えています。生後9ヶ月を越してくると適応ではなくなります。平均的な装着期間は5ヶ月程度です。

専用の3Dカメラを使って赤ちゃんの頭をスキャンし、斜頭や短頭の程度を調べ、適応かどうかを判断します。ヘルメット治療の効果・注意点・問題点などをご説明させていただき、ご納得いただければヘルメットを発注します。頭蓋骨早期癒合でないかをチェックするため、頭の単純レントゲン写真を1,2枚撮影します（レントゲン撮影ができる施設からの紹介の場合紹介に前に撮影していただけますと大変助かります。正面像とTowne法）。



ヘルメットは、制作に5営業日（Berry）かかり、郵送にプラス1日かかりますので、約1週間後に当院に到着し装着開始となります。

治療効果は装着時間に比例するので、できるだけ長い時間装着していただきます。わかりやすく言うとお風呂の時以外はつけておくと理解してください。副作用としてはヘルメットによる皮膚かぶれがある程度です。

治療開始後の受診は、装着開始後2週間後（初期トラブルのチェック）、1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後、…となっています。

装着開始後1ヶ月からの受診時は経過の把握のために3D scan撮影をします。

❖ 3D scan撮影について

変形の程度は見ただけではなかなかわかりませんので、ヘルメットの発注の有無に関わらず最初の1回だけscanさせていただくことができます。ヘルメットの発注の時には改めて3D scan撮影をしますが、それまでの期間での複数回の3D scan撮影はご遠慮願っています。

❖ 料金について

ヘルメット発注の日の受診分から自費診療となります。それ以前の相談や治療適応の判断のための受診は保険診療です。

ヘルメット発注の前に自費診療分はお支払いいただきます（支払方法は相談できます）。

初診・再診や紹介の有無により、初診料/再診料・選定療養費が受診形態に応じて加算されます。

❖ 医療費控除について

医療費控除の対象になるようです。確定申告時にご申告ください。ただし最終的には税務署の判断となります。